



4・5月号

発行所  
水戸市千波町1918番地  
茨城県総合福祉会館内  
公益財団法人茨城県消防協会  
編集発行人  
消防協会長 葉梨 衛  
印刷所  
(有)堀口印刷  
1部 15円  
(購読料は負担金に含まれています)

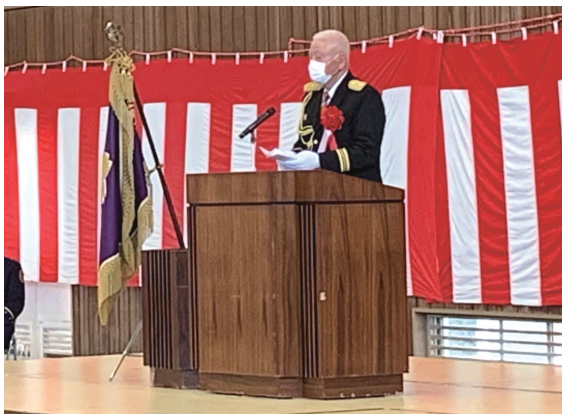
# 県立消防学校 初任科入校式

今年度の消防職員初任教育は昨年度に引き続き二期制となり、まず前期の第一期入校式が、四月八日(木)午前十時から県立消防学校において、県内一消防局・二十二消防本部から総勢百五十名の学生を迎え挙行されました。

続いて県消防協会(葉梨会長)、消防長会(小泉会長)の来賓祝辞がありました。今後、消防学校において、心身の鍛錬と消防職員として必要な知識・技能を習得し、半年後には、新時代にふさわしい消防の担い手として巣立っていくことを祈念します。



学生宣誓



会長祝辞



## 令和三年度 第一回

### 定時理事会

(書面開催)

令和三年五月十二日(水)に予定していた令和三年度第一回定時理事会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、定款第三十五条第二項の規定による書面評決を提案し、欠員を除く全ての理事から各議案について承認する旨の意見書が提出されたため、いずれも原案どおり承認・可決されました。

#### 【第一回 定時理事会議案】

- 第一号議案  
令和二年度事業報告
- 第二号議案  
令和二年度会計決算
- 第三号議案  
評議員会の招集

# 令和三年 春の叙勲・褒章

令和三年春の叙勲・褒章受章者が四月二十九日(木)に総務省から発令されました。

本県からは、春の叙勲が十二名、第三十六回危険業務従事者叙勲が十八名、藍綬褒章が三名、合計三十三名の皆様を受章者の栄に浴されました。

受章者の皆様の永年にわたるご尽力とご功績に対し、心からの感謝と敬意を表します。

以下、順不同にて受章者の略歴をご紹介します。※( )は発令日現在の年齢

## 《春の叙勲》

### 【瑞宝小綬章】

○日本 信一(七十一)

元 つくば市 消防正監  
消防歴 四十年六月  
常総市在住

### 【瑞宝双光章】

○黒田 功(七十一)

元 稲敷市消防団 団長  
消防歴 三十四年  
稲敷市在住

○澤辺 稔(七十四)

元 つくば市消防団 団長  
消防歴 四十四年三月  
つくば市在住

### 【瑞宝単光章】

○會田 重雄(七十)

元 守谷市消防団 副団長  
消防歴 四十七年一月  
守谷市在住

○稲葉 義雄(六十九)

元 筑西市消防団 分団長  
消防歴 四十五年  
筑西市在住

○海老根 正夫(七十二)

元 水戸市消防団 団長  
消防歴 三十七年六月  
水戸市在住

○鈴木 健一(七十二)

元 筑西市消防団 副団長  
消防歴 四十五年  
筑西市在住

○鈴木 博(八十)

元 内原町消防団 副団長  
消防歴 三十八年  
水戸市在住

○高須 喜一(六十六)

元 稲敷市消防団 副団長  
消防歴 三十七年八月  
稲敷市在住

○高橋 栄(六十五)

元 古河市消防団 団長  
消防歴 二十九年  
古河市在住

○豊島 博行(六十七)

元 つくばみらい市消防団 団長  
消防歴 三十八年  
つくばみらい市在住

○森田 主税(七十二)

元 城里町消防団 団長  
消防歴 三十三年五月  
城里町在住

## 《第三十六回危険業務従事者叙勲》

### 【瑞宝双光章】

○池永 眞佐次(七十五)

元 鹿島南部地区 消防司令長  
消防歴 三十五年三月  
神栖市在住

○色川 利男(六十五)

元 石岡市 消防監  
消防歴 四十一年九月  
石岡市在住

○川尻 友男(六十六)

元 稲敷広域 消防監  
消防歴 四十年  
稲敷市在住

○北澤 達也(六十五)

元 取手市 消防監  
消防歴 四十二年  
龍ヶ崎市在住

○芝山 茂(六十九)

元 茨城西南広域 消防監  
消防歴 四十年九月  
古河市在住

○高木 一男(六十七)

元 土浦市 消防監  
消防歴 四十二年  
阿見町在住

○福田 崇(七十四)

元 常総広域 消防監  
消防歴 三十五年九月  
常総市在住

○柳林 悟(六十七)

元 稲敷広域 消防監  
消防歴 三十九年  
水戸市在住

○吉川 一幸(六十六)

元 鹿島地方 消防司令長  
消防歴 四十二年  
潮来市在住

### 【瑞宝単光章】

○赤根 守(六十七)

元 土浦市 消防司令長  
消防歴 四十二年  
土浦市在住

○飯田 芳夫(六十九)

元 土浦市 消防司令長  
消防歴 四十二年  
土浦市在住

○大塚 行雄(六十八)

元 石岡市 消防司令長  
消防歴 四十二年  
石岡市在住

○掛札 一男(七十三)  
元 常陸太田市 消防司令長  
消防歴 四十年  
常陸太田市在住

○軍司 良一(六十七)  
元 水戸市 消防司令長  
消防歴 四十一年九月  
城里町在住

○辻 由明(六十六)  
元 水戸市 消防司令長  
消防歴 四十一年九月  
水戸市在住

○鶴見 喜代三(七十四)  
元 茨城西南広域 消防司令  
消防歴 四十一年十月  
古河市在住

○富岡 美明(七十六)  
元 常陸太田市 消防司令長  
消防歴 四十年  
常陸太田市在住

○三嶋 義則(六十八)  
元 日立市 消防司令長  
消防歴 四十一年  
日立市在住

《藍綬褒章》

○菊田 信夫(六十五)  
現 古河市消防団 団長  
消防歴 三十五年一月  
古河市在住

○酒井 正一(六十五)  
現 かすみがうら市消防団 団長  
消防歴 四十二年一月  
かすみがうら市在住

○高橋 周一(六十二)  
現 下妻市消防団 団長  
消防歴 四十二年一月  
下妻市在住

公益財団法人 日本消防協会  
研修派遣

公益財団法人日本消防協会への二年間の研修派遣を終えられた、茨城西南広域消防本部の山本消防司令及び稲敷広域本部の折原消防司令のお二人に研修派遣での経験や感想等について寄稿していただいたのでご紹介いたします。

「公益財団法人日本消防協会  
研修派遣を終えて」



茨城西南広域消防本部

山本 瑛平

月日が経つのは早いもので、公益財団

法人日本消防協会への実務研修生としての派遣が終了し二か月が過ぎようとしています。

平成三十一年四月一日、当時の菅官房長官により新元号「令和」が公表され、世間がざわつく中、少なからずの不安と緊張を抱え、東京都港区虎ノ門の日本消防会館(現 東京都港区東新橋)へ歩を進め、着任したことを昨日のことのように覚えていきます。

まず、日本消防協会の実務研修派遣とは、全国の消防本部から派遣された十五名(同期十一名、先輩四名)が各部署に配属され、担当業務はもちろんのこと、一般行政知識の習得と実務能力の向上、全国の消防事情調査、消防団活動の全面的な協力、そして、厳密に練られた研修カリキュラムの基、国の消防行政、関係省庁の講義をはじめ、全国の消防関係行事等に積極的に参加し、自己の見聞を広げ、今後の消防行政に反映させることを目的としています。

さて、一年目の私は、業務部に配属され、地域防災力の強化に資する事業として、消防団長、消防団幹部候補者及び指導員等の教育訓練事業、消防団運営のあり方に関する研修会等を実施するとともに、横浜赤レンガ倉庫群で開催された全国女性消防操法大会運営に携わりました。

さらに、将来の地域防災を担う少年消防クラブの活動を支援するため、全国少年消防クラブ交流大会の開催や、CTIF(国際消防救助協会)が主催するヨーロッパ青少年消防オリンピック(スイス)に、

四十年消防クラブ二十名の青少年を日本代表としての派遣する事業にコーディネーターとして帯同しました。

二年目は国際部へ配属され、消防車両等国際援助事業として、国際貢献と発展途上国の消防力強化に寄与するため、国内各地の消防機関から更新を迎えた中古消防車両等の提供を受け、発展途上国に無償で車両の援助をする事業に携わりました。

また、外務省のODA資金(草の根無償)を活用し、被援助国の経済社会開発を目的として、現地に赴き、消防技術援助を行うことを予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により遂行することが出来なかったことは、少しばかり残念に感じましたが、この事業で、普段の消防業務では関わることのない外務省や在京大使館、貿易会社等、様々な方と同じベクトルで仕事をできたことは、大変ながらもとても新鮮で有意義な時間となりました。

この二年間で多くの素晴らしい経験ができたことは、消防人生だけでなく、今後の私の人生において、貴重な財産となりました。

最後になりますが、研修派遣を受け入れていただいた日本消防協会をはじめ、絶大なご協力をいただいた茨城県消防協会並びに各都道府県消防協会の皆様、人員不足の中、快く研修派遣に送り出していただいた所属消防本部、そして、二年間温かく見守っていただいた家族から感謝いたします。

「公益財団法人日本消防協会 研修派遣を終えて」



稲敷広域消防本部 折原 慎 吾

はじめに、今回、研修派遣を受け入れていただきました日本消防協会をはじめ、派遣調整等に尽力いただいた茨城県消防協会並びに研修機会をいただきました派遣元消防本部に対し、この場をお借りし深く感謝申し上げます。さらに、二年の研修中に幾度となくお世話になりました各都道府県消防協会の皆様にも合わせて感謝申し上げます。

二年を振り返りますと、平成三十一年四月一日に東京都港区虎ノ門の日本消防協会館内にあった公益財団法人日本消防協会（現在は、同所に新日本消防協会館建設のため旧会館は取壊しが進められ、事務所を新橋の旧ヤクルト本社ビル内へ仮移転中。）に着任し、緊張の中、同じく全国の消防本部から派遣となった研修生十一名と一年先輩の研修生四名の計十五名と共に実務研修がスタートしました。実務研修では、研修生それぞれが日本消防協会の各部署に所属し、担当事務を通じ、消防職員として必要な広範な行政知識の習得と実務能力の向上を目的とし、

国の消防行政、全国の消防本部、消防団の動向等、種々の情報収集を行います。私自身、一年目は総務部に所属し、消防防災に関する広報・出版物販売事業（ホームページに掲載する消防団情報の収集管理・消防団手帳作成、販売等）や調査研究事業（全国消防団員数調査等）のほか、消防団員の交流会や消防防災に関するシンポジウム開催の企画調整を行いました。

二年目は福祉部に所属し、消防団員等の福祉厚生に関する事業（消防団員等への各種助成・健康増進及び公務による事故防止事業）や消防団員確保事業（「全国消防団応援の店」の普及推進）に携わりました。また、公益財団法人消防育英会職員としても併任し、消防活動に協力し死亡（重度障害）された一般の方、及び殉職した消防職員、消防団員の子弟に対して、奨学金や入学一時金を給与するなどの育英奨学事業に携わりました。

二年の研修期間では、前述の実務研修のほかにも、月に一回程度、総務省消防庁の事務分掌に基づいた所管行政の現状と課題についての直接講義をはじめ、各消防本部、消防関係団体で行われる消防関係行事等に参加、見学して見分を広め、教養を深める機会や講演会の受講及び訓練、施設等視察など、研修生が参加することが有意義であると認められる研修が随時行われました。さらに、中国、欧州等の国々の消防事情を視察する、海外消防事情視察研修もあり、私自身も令和元年度に、全国の消防団幹部等の方々と欧州消防事情視察に

同行させていただきました。こうした多方面での研修を通じ、消防全般、特に全国の消防団に関する見分を広めることができたことが大きな収穫となりました。また、二年間の研修を共に過ごした研修生とは、互いの所属部署の垣根を超え、協力し事業を遂行できたことで、絆が深まり、かけがえのない仲間として、私自身の消防人生において非常に大きな財産となりました。今後は今回の研修で得た知識を、少しでも所属消防本部に還元できるよう努めてまいります。

編集後記

発行にあたり、公益財団法人日本消防協会研修派遣について、ご寄稿いただきました茨城西南広域消防本部 山本様、稲敷広域消防本部 折原様にお礼申し上げます。（よ）

オリジナル Tシャツ  
アポロキャップ  
徽章類  
消防グッズ各種

水戸スポーツ株式会社

水戸市袴塚1-1-2

TEL029[224]3450 FAX029[224]3430

全国シェアNo.1の消防車メーカー  
(株)モリタの各種消防自動車  
常に最新技術を反映して様々な災害現場で活躍する消防車を制作します。

その他の取扱品目

小型動力消防ポンプ・消防用ホース  
救助資機材・潜水機材・消防用被服  
防災用品・消防用品・消防資機材



茨城県代理店  
有限会社 鈴 機

〒315-0014 石岡市国府5-2-25  
TEL:0299-22-3010 FAX:0299-22-5846

Panasonic

自動火災報知設備  
非常電源設備  
自家発電設備  
CVCF設備  
FAX、パソコン

パナソニック株式会社 特機商品代理店

株式会社入江電機工業所

本社 水戸市大工町2丁目3番23号  
TEL.029-224-4614(代表)  
TEL.310-0031 FAX.029-224-4613

土浦営業所 土浦市並木1丁目2番20号  
TEL.029-821-8498(代表)  
TEL.300-0061 FAX.029-822-6575

トーハツ小型消防ポンプ

VE90AS 最大量1.5m<sup>3</sup>/分  
VC72PROIII 操法最適  
VF63AS 4ストローク B2級  
VF53AS 4ストローク B3級  
VF21AS 4ストローク C1級

消防服装 消火器 防災備蓄食品  
船外機 発電機 消防資機材

茨城県代理店

トキワ産業株式会社

水戸市三の丸3丁目7番1号  
TEL.029(224)3324(代) FAX.029(224)3360